



2022年12月26日号
冬季号

vol. 66

健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所：一般社団法人日本フローリング工業会
編集責任者：広報法務委員長 石本勝範

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F
TEL 03-3868-0971 FAX 03-3868-0972 <https://www.j-flooring.jp/>

初の試み。生産部会総会、施工流通部会総会の合同開催

令和4年10月6日(木) 札幌市



＝ 挨拶する田伏会長 ＝

生産部会、施工流通部会とも令和2年度、3年度はコロナ禍で総会開催を見送っていました。

コロナ禍が一定の鎮静化状況となり、ワクチン接種も進んだことにより3年ぶりの両部会総会開催の機運が醸成される一方、部会総会開催の負担軽減、効率的な会員間の交流も課題となっていたことから、今年度は初の試みとして両部会総会を「合同開催」することとし、10月6日札幌市で行われました。

部会の総会は、工業会定款に定められた予算、役員選出を議決する通常総会とは異なり、部会の活動方針確認や部会内の交流促進といった目的がありますので、両部会の合同開催については、工業会総会とは違った形で参加者の交流・親睦を深めることを第一の目的として内容が検討されました。

具体的には、生産部会の部、施工流通部会の部、両部会合同の部を設けて各部会の課題を議論するとともに、両部会に共通する課題も議論し、参加者が共通して関心を向ける講演会を開催し（講師：瀧澤ベニヤ社長）、34名が参加した懇親会は終始会員間の情報交換や懇親が続いたことから、当初の目的は達成できたものと参加者等から評価されています。

令和5年度の生産部会総会、施工流通部会総会の開催については、両部会長等にて検討し、令和5年7月理事会で案を検討することとしました。



7月理事会

林野庁からウッドショック、
ウクライナ・ロシア情勢に関する情報提供
(令和4年7月26日)

林野庁木材産業課長をお招きし、昨年春頃から始まったいわゆる「ウッドショック」、今年2月からのロシアによるウクライナ侵攻に伴い禁輸となったロシア材について、林野庁から政府が把握している客観的な情報のご提供と今後これらに対する施策の検討状況などについてお話をいただき、林野庁の提供情報等を踏まえ、理事、監事からの地域状況報告を交えた意見交換を行いました。

このほか、本年度は生産部会総会、施工流通部会総会を合同開催することが了承され、技術委員長からフローリング張り標準仕様書改正、国土交通省の公共建築工事標準仕様書の改正、農林水産省のJAS改正に関する経緯説明等がありました。

なお、コロナ感染症の第7波による感染者数が急拡大したことから、直前に、原則リモート開催としましたが、既に東京においでの方の理事等もいらしたため林友ビルのリアル開催とともにハイブリッド開催としました。また、例年7月理事会と同日に実施してきた中央省庁要請活動は中止としました。

12月理事会

令和5年度
工業会運営方針に関する事項を審議
(令和4年12月13日)

木材会館(東京都江東区新木場)にて開催し、5名の理事等がリモートで参加しました。

冒頭、会長から、「ウッドショック、ウクライナ戦争、円安、物価上昇とかつて体験したことない大きな波の1年間であった。各社ともこれの対処を考えざるを得なかった1年であったのではないかと今年を総括する挨拶がありました。

議事の内容は、生産部会総会、施工流通部会総会の合同開催の状況報告、今後の工業会予算の収支改善に向けた検討状況、令和5年度総会の開催方法、令和4年度決算見込などが了承され、これらを踏まえた令和5年度予算案について審議が行われ了承されました。さらに、課題となっていた理事数の見直しについては、一部支部を除き現行定数を維持する方針が了承されました。

また、ご出席いただいた林野庁木材産業課の課長補佐、係長から木材産業政策の施策課題、令和4年度補正予算などの説明があり、今後、フローリング業界が検討すべき課題などについて、林野庁と理事会メンバーとの意見交換をしました。



標準仕様書改正の経緯などから
工業会の役割などについて議論

今後の工業会運営等について審議



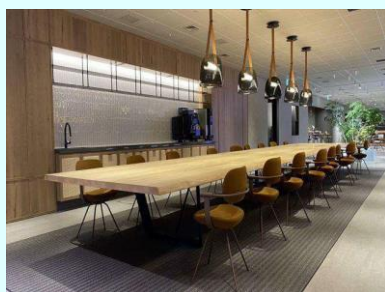
木材利用に向けた表彰制度に賛同する中央省庁が増加

木材を利用・使用することが二酸化炭素の固定や適切な森林整備・自然環境保全に寄与するとの認識が広がってきたことから、今年は木材利用関連の表彰制度に新たに参加する省庁がありました。

《ウッドデザイン賞》

ウッドデザイン賞は、平成27年(2015年)に創設された木材に関連した優れた建築・空間、製品、活動や仕組み、研究等への顕彰制度です(実施:一般社団法人日本ウッドデザイン協会)。8年目の今年は最優秀賞として従来の農林水産大臣賞のほか、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞が新設されました。

経済産業大臣賞



ワーカーのウェルビーイングな働き方をサポートするビッグテーブル「シルタ」
株式会社イトーキ(東京都)

環境大臣賞



SANU 2nd Home
株式会社 Sanu(東京都) 株式会社 ADX(福島県) 有限会社二葉測量設計事務所(静岡県) 釜石地方森林組合(岩手県)

写真のほか、農林水産大臣賞は「MOKUWELL HOUSE:MEC Industry 株式会社(鹿児島県)」、国土交通大臣賞は「HULIC &New GINZA 8:株式会社竹中工務店(東京都)ヒューリック株式会社(東京都)、隈研吾建築都市設計事務所(東京都)、西白河地方森林組合(福島県)、協和木材株式会社(東京都)」が受賞。

《木材利用優良施設等コンクール》

木材利用推進中央協議会(昭和59年発足)が平成5年(1993年)から実施してきた木材利用優良施設等コンクールは、木材利用や特色ある木材活用の範となる施設等の施主、設計者、施工者を表彰してきました。今年の表彰は文部科学大臣賞が新設されました(従来は、内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞)。

内閣総理大臣賞



流山市立おぐろの森中学校(千葉県)

文部科学大臣賞



大豊町立学園(高知県大豊町)

写真のほか、農林水産大臣賞は「京丹波町役場庁舎(京都府丹波町)」、国土交通大臣賞は「Port Plus 大林組横浜研修所(神奈川県市)」、環境大臣賞は「HULIC &New GINZA 8(東京都中央区)」が受賞。

近畿・中国・四国支部だより

中村 有司 近畿・中国・四国支部（株式会社ナカムラ・コーポレーション）

10月に北海道にて生産部会、施工流通部会の合同総会が開催されました。

今回の合同総会は近畿・四国・中国支部が担当支部だったのですが、北海道での開催ということもあり会場の手配や総会の進行まで、私たちの支部以外の方々にお手伝いいただき、多大なるご負担をおかけしてしまいました。

お手伝いいただいた方々に感謝するとともに、合同総会の際は事前に役割分担を明確にするべきだったと反省しております。

さて昨今の資源高、急激な円安による資材高騰を受け、全国的に住宅着工件数も落ち込んでいるようです。

このような苦境の時だからこそ、会員企業様の間での情報交換を活発にして、協力し合いながら、乗り切っていければと思っております。

みなさま、今後ともよろしく願いいたします。



ひとこと

石本 勝範 近畿・中国・四国支部（マルコマ株式会社）

10月6日に札幌にて開催された生産部会総会、施工流通部会総会の翌日に、会員の一層の懇親を深めることを目的とした懇親ゴルフ会が行われました。

会場は、毎年男子のANAオープンが開催される札幌ゴルフ倶楽部「輪厚コース」です。



トーナメント直後ということもあり難しいコースセッティングに皆さん大変苦労されたようでしたが、天候に恵まれ、スコアはともかくとして参加した皆さんは大いにゴルフを堪能されたようで、懇親ゴルフを通じて会員の交流を深めることができた1日であったと思います。

●広報法務委員

委員長 石本 勝範

委員 佐藤 仁明 委員 矢野 伸和

委員 清見 謙造 委員 當舎 弘造

●会員動向 令和4年12月1日時点

正会員 47社

賛助会員 17社

合計 64社

●告知板

3月8日(水) ……令和5年度通常総会(東京)

編集後記

ウッドショック、ロシア材禁輸、中国ゼロコロナ政策での資材供給減、円安進行など次から次へと問題が顕在化した1年で、令和4年は当業界をとりまく環境がどんどん厳しさが増してきたと言わざるを得ません。

一方では、ウッドショック、ロシア材等の報道が増すにつれて、「木を伐るのは悪」との世論が縮小し、「森林整備・環境保全、温暖化防止、経済安全保障のため木は利用すべし」との機運が急速に膨張してきたのは、我々にとっては歓迎すべきではあるが、身を削られている事象による世論変貌は、なにか皮肉な感がぬぐえません。

来年は、木質フローリングの増収・増益、施工・流通販売拡大とともに、世論の支持が両立する本来の姿に一步でも前進させたいものです。

